

# 皇室へのソボクなギモン

神が宿ると考え、先祖を大切に敬う信仰です。縄文時代の原始日本人が持っていたアニミズム的信仰を大和朝廷が大切に守りながら育て、現在に伝えられてきたのが神道です。そして、天皇は、全日本人に代わって天照大御神を祭り、五穀豊穡、国民の幸せ、世界の平和などをひたすらお祈りになる存在でした。

古より日本人は、四季折々の豊かな自然のなかで稲作を基盤にした暮らしを営み、独自の文化を築いてきました。

その永い歴史に想いを馳せる時、神話の時代から連続と受け継がれてきた皇室の存在と、天皇がおんみずから御親ら祭祀を行われるという、わが国の伝統に気づきます。このような天皇の敬神の伝統は、日本の歴史・文化を支えてきた支柱と言えます。そこで、皇室についていくつかの疑問について考えてみたいと思います。

## ◎天皇家と神道の関係は？

神道は、日本古来の民族的な宗教です。欧米の一神教のような開祖、教義、教典はなく、山や小川や木、竈など万物に目に見えない「あたる」天孫に授けた鏡を「この宝鏡を私（天照大御神）だと思つて宮中に祀るように」とあります。また、宮中祭祀の第一の祭典である新嘗祭も高天原の斎庭の稲穂を授けて「食物として地上で栽培するように」という神勅に基づいています。

天皇は、お祭りの際には必ず身を清めて、清浄な装束をつけてこ奉仕されています。大祭、小祭や臨時祭、また毎月一日、十一日、二十一日に行われる旬祭を含めると、年間六十回余になります。皇后陛下が妃殿下の頃、皇太子殿下が、一年で最も重要な新嘗祭から戻つて来られた時の御歌に

新嘗の み祭果てて 還ります  
君のみ衣 夜気冷えびえし

とあり、「国やすかれ、民やすか

神が宿ると考え、先祖を大切に敬う信仰です。縄文時代の原始日本人が持っていたアニミズム的信仰を大和朝廷が大切に守りながら育て、現在に伝えられてきたのが神道です。そして、天皇は、全日本人に代わって天照大御神を祭り、五穀豊穡、国民の幸せ、世界の平和などをひたすらお祈りになる存在でした。

と神勅を与えました。天照大御神が治めていたのは「高天原」という天上の世界。豊葦原瑞穂の国は日本のことを褒めた呼び名で「豊かな葦原に瑞々しい稲穂が実る国」という願いが込められています。天照大御神の孫が地上を治めるために天上から降臨します。これが「天孫降臨」です。

## ◎万世一系とは？

天皇や皇室の永遠性を表す言葉。初代・神武天皇から第百二十五代・今上天皇まで一貫して男系で受け継がれています。

## ◎天孫降臨とは？

日本の皇室の始まりは、神話の中の「天孫降臨」に遡ります。皇祖神（皇室の祖先）天照大御神が、孫のニニギノミコトに「この豊葦原瑞穂の国を治めなさい」と

神話には北欧神話やケルト神話もありますが、神話を自分の物語とし受け継いできていません。日本は、神話の世界が現実のものとして生活のなかに生きている唯一の国なのです。

## ◎宮中祭祀とは？

日本古来の民族的な宗教です。欧米の一神教のような開祖、教義、教典はなく、山や小川や木、竈など万物に目に見えない「あたる」天孫に授けた鏡を「この宝鏡を私（天照大御神）だと思つて宮中に祀るように」とあります。また、宮中祭祀の第一の祭典である新嘗祭も高天原の斎庭の稲穂を授けて「食物として地上で栽培するように」という神勅に基づいています。

宮中で天皇が主宰されて行われる祭祀。起源は、「日本書紀」に記されている「神勅」に求められます。象徴というのは明治に新渡戸稲造が「武士道」の中で、天皇は象徴 (symbol) と説明したのを、戦後GHQが援用したものです。

## ◎「君が代」の由来は？

原歌（もとうた）は古代にまで遡りますが、初見は古今和歌集。「わが君は 千代にましませ さざれ石の いはほとなりて 苔のむすまで」「よみ人しらずで長寿を祈る歌です。「わが君」は「天皇」という意味ではなく、自分にとって敬愛すべき相手のこと。古代から愛誦され、千年以上庶民にうたい継がれ、明治になってイギリス人の軍楽長の「国歌を作るべき」という助言によって薩摩藩の大山巖が「歌詞は古歌から選ぶべき」と愛誦していた「君が代」を選んだということでした。

桜を見ると春を感じ、富士山を見ると日本を感じるといのが象徴です。ですから日本国の象徴とは、天皇を見た時に、伝統、文化、歴史、国土、国民、民族そうしたもの全部包括した「日本」を感じるといことです。

## ◎日本国の象徴とは？

憲法第一条に「日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」とあり



旧皇族竹田家、明治天皇の玄孫 竹田恒泰氏による皇族に関する著書